

方向音痴

2022. 5. 10

どれほど前からだろうか。困っていることがある。駐車場に車を止める。買い物などが終わり、駐車場に戻る。自分の車が見つからない。こういったことが何度か続いた。

こんなこともあった。私の車は黒のワンボックスカーである。駐車場には、似たような車がある。自分の車だと思い近づく。「ああ、違った」ひどいときには、運転席側のドアノブに触れ、人の車のドアを開けようとしたこともある。幸い、中に人がいなかったため事なきを得た。

最もひどかったのは、本当に人の車のドアを開けてしまったときである。なぜ開いてしまったのか。運転席には、その車を運転する方がいたからである。一瞬何が起きたのかわからなくなる。とりあえず「すみません」という言葉が口から出た。いきなり、車のドアを開けられた方は、どう思ったのだろうか。こちらとしては、冷や汗ものである。

こんなことが続き、さすがに考えた。自分は、方向音痴なのか。それとも重い何かの症状なのか。東西南北の方角はわかる。だが、駐車場の自分の車にたどり着けない。対策を考えた。大きな駐車場ほど危険である。迷子になってしまう。アルファベットの表示などがある場合は、それを必ず覚えるようにした。表示がない場合でも、駐車した場所のまわりをよく見ておくようにした。また、人の車を開けないように、ナンバーを見るようにした。自分の車を探すのにナンバーを見なければならぬとは情けない。

自己分析をした。自分の車を置いた場所を平面図としては認識できている。それを違った方向から見ると、わからなくなる。簡単にいうと、振り向くとわからなくなるという状態である。家人といるときには大丈夫なのだが、一人のときには心配になる。

もっとすごいこともあった。野田中学校のすぐ近くに吾妻支所と吾妻学習センターがある。そこで会議があると、さすがに車ではなく徒歩でかける。あるとき、会議が終わり、駐車場で車を探すとない。自分の車がない。本気で焦った。どこに止めたかも全く記憶がない。ほどなくして気がついた。「今日は歩いてきたんだっただ」苦笑いするしかなかった。

この事件以来、私の方針は定まった。当たり前前にできていたことがもうできなくなってしまった自分がある。それを受け入れるしかない。対策を考えればいいだけのことである。他にも単純な電話番号を覚えることができないという症状がある。そうであれば、いちいち確認しながら電話すればいいだけのことである。多少時間はかかるが。

これからも、様々な症状が増えていくかもしれない。仕方がない。せめてもの救いは、仕事に関することは覚えている。いくつかの情報から瞬時に判断することもできる。即断即決である。この分野に関しては、以前よりも上がっているように思う。単純な記憶力は低下しているが、思考力や判断力は、それほど低下しているとは思えない。

結局、方向音痴なのかどうかはわからないが、困っていることは確かである。